

柏原 光太郎(かしわばら こうたろう) 62 歳

一般社団法人日本ガストロノミー協会会長
食の熱中小学校校長
ガストロノミープロデューサー



<経歴>

1963年東京生まれ。慶応義塾大学経済学部を卒業後、株式会社文藝春秋に入社。「週刊文春」「文藝春秋」「オール読物」編集部を経て「文春文庫」編集長、デジタル戦略事業局長、新規事業開発局長などを務め、「文春オンライン」、「文春マルシェ」の立ち上げを行った。

2018年、スペインのバスク州サンセバスチャンにある食の社交倶楽部「ソシアダガストロノミカ(美食倶楽部)」を日本に立ち上げようと「一般社団法人日本ガストロノミー協会」を設立、会長に就任。有名シェフ、生産者、地方自治体などとイベントを行い、食の多角的な楽しみを行うハブのような存在として活動。また2023年より生産者と消費者をつなぐための大人の学び舎「食の熱中小学校」の校長を務めている。

食ベログでは「グルメの著名人」としてフォロワー5 万人以上。「JB プレス」「味の手帖」「食ベログマガジン」など多数のメディアに執筆するほか、メディアサイト「note」にて飲食業界のキュレーションを毎日行い、外食産業関係者とのつながりも深い。東京都、三重県、富山県、大阪府、山形県、福井県、山梨県等でガストロノミーツーリズムに関する多くの講演を行っている。著書に『ニッポン美食立国論』、『東京いい店はやる店』がある。

同氏は、「寿司といえば、富山」のブランディング戦略を行っている富山県の「とやまふるさと大使」を務め、寿司店舗の発掘や魅力等の情報発信を行っている。折しも、北九州市の「すしの都課」新設に伴い、富山県でも「すしの都」に関する取組が紹介され、武内市長と富山県の新田知事の交流が始まっている。

北九州市については、自身の著書内で市内店舗を紹介するなど、北九州市の料理人や店舗についても知識を持っており、北九州市の寿司の魅力にも注目いただいている。昨年度北九州市で開催された「すしの都北九州協議会」主催の講演会「ガストロノミー in Kitakyushu」(R7.1.20)で講演し、本市の今後の政策についての提案もいただいた。

※ガストロノミーとは

その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しむこと、食文化に触れること。